

農作物技術情報 第6号 果樹

発行日 令和8年8月27日
発行 岩手県、岩手県農作物気象災害防止対策本部
編集 岩手県農林水産部農業普及技術課 農業革新支援担当（電話 0197-68-4435）

携帯電話用
二次元コード



「いわてアグリベンチャーネット」からご覧になれます
パソコン、携帯電話から「<https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/>」

- ◆ りんご 早生種はすぐりもぎが基本です。病虫害防除は、発生予察と適期の薬剤散布を徹底しましょう。なお、早生種は収穫期を迎えるため、農薬の使用基準を遵守し、ドリフトには十分注意しましょう。
- ◆ ぶどう 全般的に熟期が早まっています。食味を重視した適期収穫を徹底しましょう。

りんご

1 生育概況

生育診断圃の果実生育(横径)は、8月1日時点の県平均で、「ジョナゴールド」が平年比102%、前年比109%、「ふじ」が平年比111%、前年比114%です(表1)。

7月は日照時間が平年より少ない地域が多かったものの、降水量は平年並以上に確保され、前年のような干ばつにならず、現時点の生育は平年及び前年を上回っています。

なお、向こう1か月の平均気温は平年より高い見通しであり(8/20、仙台管区气象台発表)、収穫に向けては、令和8年7月24日発行の「農作物技術情報特別号 高温対策」を参考に、着色の遅延や収穫前落果等に注意するほか、日焼けなどの被害を受けた果実を中心に必要に応じて摘果を実施します。

表1 生育診断圃における果実生育(横径)状況(8月1日現在)

(単位:mm)

市町村	地 区	ジョナゴールド					ふ じ				
		本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比	本年 (R8)	平年	比	前年 (R7)	比
県農業研究センター※1		71.8	70.8	101%	73.2	98%	65.2	64.1	102%	62.6	104%
盛岡市	三ツ割	71.5	69.8	102%	63.9	112%	67.4	62.7	107%	55.4	122%
花巻市	石鳥谷※2	70.7	71.1	99%	64.5	110%	71.0	62.5	114%	57.6	123%
奥州市	江刺樽輪	65.8	65.8	100%	56.4	117%	68.1	62.4	109%	54.3	125%
一関市	狐禅寺※3	72.3	69.9	103%	66.9	108%	65.9	60.9	108%	61.0	108%
陸前高田市	米崎	69.9	70.0	100%	70.5	99%	73.4	63.2	116%	64.8	113%
宮古市	崎山	－	－	－	－	－	74.1	64.7	115%	68.4	108%
二戸市	金田一	75.0	69.1	109%	67.4	111%	68.6	63.3	108%	65.6	105%
県平均値※1(参考)		70.9	69.3	102%	64.9	109%	69.8	62.8	111%	61.0	114%

※1 県平均値に農研センターのデータは含まれていない。 ※2 R4年度から定点が変更となったため、平年値は花巻市上根子(前定点)の値を使用。

※3 R2年度から定点が変更となったため、平年値は一関市花泉(前定点)の値を使用。 ※4 平年値は昭和60年～令和7年の平均

2 栽培管理のポイント

(1) 早生種

ア 仙台管区気象台の1ヶ月予報(8/20発表)では、向こう1か月の天候は、平均気温は平年より高い見通しです。このため、高温により着色が緩慢となり、果皮色と内部品質が一致しないまま収穫期を迎える可能性があります。過度な着色は期待せず、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めてください。

イ 直射日光が果皮へ急に当たると日焼けが発生しますので、葉摘みは徐々に進めます。高温が予想される日には、極力、果面の温度が上がる午後から葉摘みを実施します。

ウ 今年の満開日から見た収穫開始の予想日は表2のとおりですが、この目安は北上市成田の満開日から算出しています。自分の園地の満開日をもとに収穫予想日を算出しつつ、食味・硬度等を確認の上、適期収穫に努めます。

エ すぐりもぎを基本とし、特に熟期が不揃いな「つがる」や「きおう」では徹底します。

表2 早生種の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期 までの 満開後日数	満開後日数 による 収穫予想日※2	収穫期の果実品質の目安			
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数	カラーチャート 指数※3
きおう	4月29日	115 ~ 125日	8月22日 ~ 9月1日	13~14	13以上	2~3	2.5~3.5
つがる	4月29日	115 ~ 125日	8月22日 ~ 9月1日	13~14	12~14	3~3.5	2~3

※1 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日 ※2 収穫開始予想日

※3 つがるはふじ地色用、きおうはきおう表面色用を使用

(2) 中生種

ア 「紅いわて」の収穫

(ア)「紅いわて」は着色の良い品種であるため、着色のみで収穫を判断すると、収穫時期が早くなり、食味が劣り、品種の評価を落とすことになります。表3のように、自分の園地の満開日をもとに収穫開始の予想日を算出しつつ、食味を重視して適期収穫に努めます。

(イ) 系統販売など輸送して販売する場合は、デンプン指数2~2.5、直接販売する場合はデンプン指数2程度を目安に収穫してください。

(ウ) 夏季が高温の年は、「紅いわて」に早期みつ症が発生することがあります(写真1)。発生程度は軽微なものが多いものの、みつ入りが多くなるほど収穫時のみつ褐変が生じる可能性が高くなりますので(写真2)、着色が進んだ果実で果皮上からみつ入りが判断できる場合は、出荷物に混入させないように注意します。

表3 「紅いわて」の収穫期の目安

品種	満開日※1	収穫期 までの 満開後日数	満開後日数 による 収穫予想日※2	収穫期の果実品質の目安		
				硬度 (lbs)	糖度 (Brix%)	デンプン 指数
紅いわて	4月28日	130 ~ 140日	9月5日 ~ 9月15日	13以上	13以上	2~2.5

※1 満開日は農業研究センター(北上市成田)観測日 ※2 収穫開始予想日

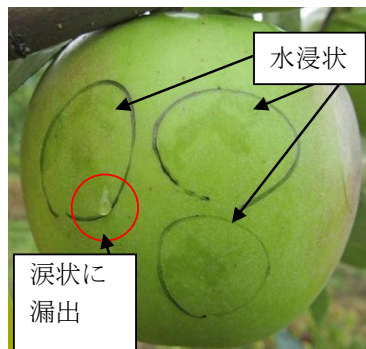


写真1 早期みつ症果の症状



写真2 収穫時のみつ褐変の症状

イ 中生品種（「紅いわて」以外）の着色管理

- (ア)「ジョナゴールド」などの着色管理は、1回目の軽い葉摘み終了後、陽光面の着色が進んでから、葉かげや枝かげをつくらないように収穫まで玉回しを2～3回行います。玉回しと同時に適当な強さに葉を摘みます。
- (イ)着色の適温は10～20℃です。気温の高い日が続くと、必要以上に葉摘みをしていても着色は進まないなので、過度の葉摘みとならないよう注意します。

(3) 晩生種

- ア 「ふじ」は、着色期間が30～40日間と長いため、陽光面が着色してきた頃（9月下旬～10月上旬）と10月中～下旬の2回に分けて葉摘みを行います。1回目の葉摘みは、果実に密着する葉を摘む程度とし、2回目は適当な強さまで葉を摘み、陽光面の着色が進んできたら葉かげや枝かげを残さないよう玉回しを行います。
- イ 過度の葉摘みは、葉が少なくなり果実の着色やみつ入りが劣り、翌年の花芽の充実が悪くなるなどマイナスの影響が出ますので注意してください。

3 病虫害防除および気象災害対策

(1) 病虫害防除

- ア 病虫害防除所が発表する病虫害発生予察情報を参考に、必要に応じて防除を実施します。特に、褐斑病や斑点落葉病の発生状況に注意します。
- イ 昨年スモモヒメシンクイの被害があった園地や9月が高温で経過する場合は、シンクイムシ類に効果のある薬剤を9月上旬～中旬に散布します。
- ウ 果樹カメムシ類が大量に飛来した場合は、効果の高い薬剤により速やかに防除を行います。
- エ 早生品種の収穫期となっているので、農薬の使用にあたっては、ドリフトや使用基準倍率、収穫前日数等）に特にも注意してください。

(2) 台風対策

強風で倒木が発生しないよう、防風ネットの設置、支柱との結束を確認してください。また、最新の気象情報を確認し、台風の接近前に収穫を進めるなど、被害を最小限になるよう対策を講じてください。

(3) 湿害対策

台風に伴う大雨や秋の長雨などで園地内が過湿になった場合、根部の障害による樹勢衰弱や裂果等が発生しやすくなります。園地内に水が停滞しないよう、ほ場に溝を掘るなど排水対策を講じてください。

ぶどう

1 生育概況

生育診断圃の「キャンベルアーリー」は、8月15日時点の糖度（Brix値）が15.4%で平年より高く（表4）、収穫の目安に達しました。また、果房長は20.8cmで平年及び前年を上回り、果径は18.6mmで平年及び前年並です（表4）。

なお、向こう1か月の平均気温は平年より高い見通しであり（8/20、仙台管区气象台発表）、高温で着色が緩慢となる可能性があるなか、糖度は高く、酸の低下が早いことが想定されることから、過度な着色は期待せずに、食味を重視した適期収穫を行います。

表4 ぶどう(キャンベルアーリー)の生育状況(観測地点:紫波町赤沢)

調査年次	8月15日時点での生育				
	新梢長 (cm)	節数 (葉数)	果房長 (cm)	果径 (mm)	糖度 (brix%)
本年(R8)	174.1	22.0	20.8	18.6	15.4
平 年	138.7	17.4	15.4	19.0	9.3
平年差・比	126%	126%	135%	98%	6.1
前年(R7)	163.9	17.0	16.1	18.4	15.8
前年差・比	106%	129%	129%	101%	-0.4

※平年値は、昭和49年から令和7年の平均値。

2 収穫

収穫は着色、糖度などの食味に留意しながら、品種ごとの基準糖度に達してから行います。過熟になると商品価値が低下し、裂果や脱粒の発生も助長しますので、着色は過度に期待せず適期収穫に努めてください。

※ 詳細は、7月30日発行の「農作物技術情報第5号 果樹」を参照ください。

ツキノワグマの出没に関する警報

県は、ツキノワグマの出没に関する一層の注意を促し、更なる被害の防止を図るため、県内全域に「ツキノワグマの出没に関する警報」を発表します。県民の皆さんにはツキノワグマの被害を防止するため、一層の注意をお願いします。

<https://www.pref.iwate.jp/kurashikankyau/shizen/yasei/1049881/1043255.html>

- クマに遭遇しないために
 - ・ 事前に入山地域の出没情報や被害情報を確認する。
 - ・ 音の鳴るグッズを常に鳴らして存在をアピール
- クマを寄せ付けない
 - ・ 食べ残し等、エサになるものを放置しない
 - ・ 農地周辺のやぶを刈り払い、見通しの良い環境を整備する。
- 出会ったときの行動
 - ・ 背を向けて走って逃げない
 - ・ 目を離さず静かにゆっくり後ずさる
- 襲われそうになったら...
 - ・ クマが攻撃してきたら両腕で顔や頭をカバーし地面に伏せて防御する

次号は9月24日(木)発行の予定です。気象や作物の生育状況により号外を発行することがあります。

熱中症防止

- 日中の気温の高い時間帯を外して作業を行うとともに、休憩をこまめにとり、作業時間を短くする等作業時間の工夫を行うこと。水分をこまめに摂取し、汗で失われた水分を十分に補給すること。気温が著しく高くなりやすいハウス等の施設内での作業中については、特に注意。
- 帽子の着用や、汗を発散しやすい服装をすること。作業場所には日よけを設ける等できるだけ日陰で作業するように努めること。
- 暑い環境で体調不良の症状がみられたら、すぐに作業を中断するとともに、涼しい環境へ避難し、水分や塩分を補給すること。意識がない場合や自力で水が飲めない場合、応急処置を行っても良くならない場合は、直ちに病院で手当を受けること。

農業普及技術課農業革新支援担当は、農業改良普及センターを通じて農業者に対する支援活動を展開しています。